天理教 江南支部だより

発行先　江南支部
発行日　立教189年11月1日
発行責任者　九里正昭
発行住所　甲賀町神1750番地の1
11月号　NO314

「おさしづより」

何でもないと思て來る者が、どんな働きするや知れん。軽い者が重うなる。重い者が軽いやら、これも分からん。初めから練れたのやない。聞いた者は、元々分かりたる者もあろ。

（明29・12・18）

みちのだい育み塾

江南支部婦人会

日時　11月14日午前9時半
会場　大原市場分教会
内容　女鳴り物の取り扱い
対象　子育て中のお母さん
　　女子青年
申込締切　11月10日



立教189年 11月26日（木）

新米をおぢばへ届けよう！！

滋賀教区献米団参

● 献米受付場所　炊事本部　● 献米受入時間　午前９時～１０時
・各支部の搬入責任者は献米量を報告してください。
・受入係員は午前８時３０分迄に集合してください。
● 米農家の減少に伴い現金でのお供えもお寄せ頂いておりますが、少しでも近江米を現物でお供えしたいと思います。主旨ご理解の上ご協力をお願いいたします。

親里の集い

● 会　場　『五講堂』おやさとやかた東左５棟４階講堂
● プログラム
12：30　開場
13：00　開会の辞　中西 吉次 教区長
13：15　記念講演　講師　長﨑宏治 先生
14：30　閉会の辞　山﨑房生 教区布教部長



● 記念講演
「夢とロマンを胸に」
講師 長﨑宏治 先生
布教の家岡山寮寮長
岡山部属・後楽分教会長

だけど有難い 華のある人

深谷善太郎著

テレビ、映画、舞台、あるいは野球やサッカーといったスポーツの世界などを見ると、「華のある人」というのはいるものですね。その人がやって来ると周りまでパッと明るくなるような、なんとも言えない魅力がある。そういう人には、人の心が寄るから、物も寄ります。

たとえば、アテネオリンピックで野球競技の日本代表監督を務めた長嶋茂雄さんがそうです。巨人ファンでなくても、長嶋ファンだという人は多いですね。それだけ魅力があるからでしょう。途中で病気になってアテネへ行けない状態になったのに、監督は代わりませんでした。普通なら、そのまま続けることはあり得なかったと思いますが、周囲から文句も出なかった。まさに「華のある人」です。みんなが「長嶋さんなら」と認めてしまう素晴らしさがあるのです。

私は、道友社発行の『すきっと』という雑誌が「華」という特集を組んだ際に、フジテレビの元プロデューサー・横澤彪さんの話を聞いたことがあります。昔「オレたちひょうきん族」というバラエティー番組をプロデュースしていた人です。ビートたけしや明石家さんまが出演していて、大変人気がありました。

その横澤さんが、こう言うのです。

「華のある人というのは、まず何より『陽気な人』である。『明るい人』である。暗い人には華はない。また、どんなに苦労していても、苦労が顔に出る人には華はない。役者でも、苦労が顔に出ると華はないんです、あとは下り坂です」

また、こうも言っていました。

「華のある人というのは、人を喜ばせたいという気持ちを持っている人である」

たとえば、落語家の初代・林家三平師匠は、明るく陽気で、人を喜ばせる心が人一倍あったそうです。ネタが受けないときは、草履を投げてでも受けたい、お客さんに喜んでもらいたい。笑ってもらえるなら、なんでもするというのが、あの三平師匠だった。師匠がいるだけで、みんなうれしくて楽しくて、そばへ寄っていったということです。

この話を聞いて思いました。そんな話なら、わざわざ横澤さんを取材しに行かなくても、お道の人こそ「華のある人」のはずです。親神様を信じているのですから、当然、明るく陽気な心になれますね。そして、お道では「人をたすける」ことを学びますから、当然、人に喜んでもらいたい、たすかってもらいたいという心を持っているのです。

では、お道を信仰してさえいれば良いのか。そうではありませんね。教えを実行しないと、人の心も物も寄るような魅力のある人にはなれません。

「信じているが、にをいがけができない」「人をたすけるなんて、おこがましいと言う人がいます。しかし、それは考えようによっては、災害や事故のときに、自分がたすかって「ああ良かった。でも、人をたすけるなんて気持ちにはなれない」と言っているようなも

のです。
　人のことを思いやれない、考えられないというのは、たすかりにくい姿です。犯罪を起こす人たちは、たいてい後のことは考えていません。人の痛みに気がつけば、そんなことはできないのです。
　私たちお互いは、教えを実行させていただいて、
「あの人がいると、うれしくなるな」
「あの人に会って、話が聞きたいな」
「あの人の話を聞くと、何か明るい気持ちになれるな」
　そんな華のある人、魅力ある人を目指したいものです。



『みちのとも』より一寸いい話
親孝行　夫婦仲良く　陽気ぐらし

古川　博　鞠生分教会長

　30年前、教祖百十年祭に向かう三年千日の1年目に、母が出直しました。母は出直す直前まで、まだ独身だった私の伴侶を探してほしいと、病室から伯母に電話で頼んでいたそうです。翌年、母の霊の働きか、最高の伴侶と結婚でき、教祖百十年祭は夫婦で参拝させていただきました。
　私たちは結婚した翌年にハワイへ渡り、その翌年、無担任教会の会長に就任しました。その年から4年続けて子供を授かり、子育てと、慣れない海外での生活に追われる毎日でした。
　結婚当初からの目標は〝仲良し家族〟。子供たちと共に、その実践を心がけました。妻はいつも私を夫として、また会長として立ててくれ、子供たちに私の不足を言ったことがありません。それはいまも続いています。
　教会長として初めて迎えた教祖百二十年祭の旬には、教祖のお導きを頂いて、6人のよふぼくが誕生しました。
　年祭の翌年に父が出直し、それを機に会長職を後任に譲って帰国。現在の教会をお預かりしました。
　それからは、子供たちにとって不安な毎日だったと思います。ハワイから日本に来て生活環境が大きく変わったことは、家族にとって大きな節でした。その節を乗り越えられたのは、紛れもなく、信仰に基づく夫婦、家族のつながりのおかげだと思います。「親孝行　夫婦仲良く　陽気ぐらし」は私の好きな言葉で、いつも大切にしている指針です。学校から教会に帰れば陽気ぐらしがある。そんな生活は、子供たちにとって心安らぐものだったと思います。
　子供たちは、長女を筆頭に弟たちも皆おぢばの高校に進学しました。長女は一昨年、同じ直属の部内教会に嫁ぎ、昨年、息子を授かりました。娘も〝仲良し家族〟の実践を心がけているようです。長男は今年、大教会青年を終え、私の後を継ぐ心でつとめてくれています。次男は天理教校本科研究課程を卒業し、将来を見据えて伏せ込みの毎日を送っています。三男は天理高校北寮で幹事を務めながら、信仰心を磨いています。
　年祭活動も残りわずか。親孝行の心を忘れず、夫婦、家族仲良く、陽気ぐらしをさせていただきます。



9月28日から30日にかけて全教一斉にをいがけデーが実施されました。また、各会でも様々な研修会が行われました。少年会は教区団の総会が行われました。教区啓発委員会では「一れつきょうだい推進研修会」を開催、教区民生委員児童委員会では初の現地研修会で「名荷村」へ行きました。本年最後の支部ひのきしんが「鹿深の家」で行なわれました。また、信楽組は11月4日に紫香楽病院でひのきしんを実施、55人が参加されました。



甲南組では神名流し、路傍講演を実施



新しく住宅地図を作成した



少年会総会で真剣におつとめをつとめた



アトラクションの抽選会を楽しんだ



教区民児協の現地研修会参加者



信楽組がひのきしんを実施

ご参加下さった皆さま、ご苦労様でした！

11月にをいがけデー

１１月２８日（土曜日）午前９時～

拠点教会 淡海分教会　甲賀町鳥居野1104番地の１